

花づな

hanazuna 2014.1

vol. 37

[花づな]

四季折々に咲き競う花々は、精いっぱい自分を自分らしく表現しているように見えます。男女が明るい未来に向かって手をつなぎ合うことを「花づな」の名に託しています。

●●● 特集

男性にとっての“男女共同参画”



イクメン

カジダン



イクジイ



私 たちがめざす「男女共同参画社会」とは、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる、多様性に富んだ活力ある社会です。「男は弱音を吐くものじゃない」「男の自分が家族を養わねば」……「男性だから」という意識を持っていると、男性にとっても社会全体にとっても重荷になってしまいます。男性が自分の働き方や家庭・地域への役割に目を向けることで、今よりずっと「生きがい」や「生きやすさ」を感じる、暮らしやすい社会につながるのではないのでしょうか。



家事・育児は、義務じゃなくて楽しい権利 やってみれば、みんなハッピー!

家事・育児は女性の仕事…と、無意識のうちに思っていないですか？
固定観念に縛られず、楽しみながら積極的に家事・育児をやる男性が増えれば、誰にとっても暮らしやすい社会になっていくのではないのでしょうか。
ここでは、自然体で育児・家事・孫育てに取り組んでいる3人の男性をご紹介します。



愛知県内で20人しかいない男性保健師の杉浦さん。日中は市のメタボ健診で保健指導を行い、家に帰れば7歳の双子と5歳の男の子のお父さんです。同じ保健師の妻・亜矢子さんと協力しつつ、育児に奮闘中です。

イクメン



天伯町・杉浦敏行さん

「子育てに参加しないのは損です!」

Q 子育ての日々はいかがですか？

妊娠7週で双子と分かった時点で、生まれたら大変だろうと相当覚悟しました。子どもは成長するにつれて動きが活発になるし、勝手に飛び出して行くので大変です。手首を脱臼したり、海岸で迷子になったりと、これまでいろいろありました。外出する時は、実家の親も頼って、大人がそれぞれ子どもの担当を決め、責任をもって目を離さないよう気をつけています。

Q 仕事との両立はどうですか？

幸い、育児休業を取る女性が多い職場なので、同僚の理解もあり、比較的定時に帰れます。時々、土曜日や日曜日にも仕事があるので、そういう時は大変です。困った時は、どちらの両親も近くに住んでいるので相談し、頼れる時は頼っています。

パートナーからひとこと

はじめは育児・料理など、私の代わりにしてもらったかったです。でも、料理を作るにも男の料理本を開いて時間をかけて凝って作るのでイラッとしたことも(笑)。今では、子どもに勉強を教えるなど、得意なことでも接してくれたらいいかなと、思うようになりました。



杉浦亜矢子さん

Q 育児の得意技はありますか？

子どもが騒いだりして、怒りたくなった時に、「あらら」と声に出して言うんです。すると、怒りがうせてしまいます。子どもたちにも「お父さんは怒っているんじゃないよ、叱っているんだよ。君たちにいい大人になってほしいから、みんなを応援するつもりで叱っているんだよ」と言っています。小さな子どもでもちゃんと説明すれば分かってくれますよ。

Q 育児に関わって、発見や喜びはありましたか？

子どもと接することで、自分もこうやって大きくなってきたんだと分かり、親への感謝の気持ちが湧いてきました。また、心の底から自分が人生の主人公であると実感しました。今では、男性が子育てに参加しないのは損だと思っています。



「自分が人生の主人公」と堂々と言いきる姿勢が素晴らしい。今はハードな日々でも、将来、きっと尊敬される/シパになること間違いなしです。

KUJIDAN

カジダン

昨年家を新築、待望の第一子誕生と、おめでた続きの27歳。工務店主催の家事講座に参加するなど、積極的に家事・育児に取り組んでいます。

伝馬町・柴田直人さん

「暮らしの中の小さなサプライズを大切に」

Q 家事講座を受講しようと思ったきっかけは？

これからの生活に役立つかなと思い、受講しました。講師のお話は興味深かったです。「家事とは何か？」から入っていくのですが、家事に対するイメージが男性はポジティブなのに対して、女性の方がネガティブなのに驚きました。女性は義務感や縛りで家事をやっている場合が多いんですね。これまでの「家事は女性がやるもの」から、男も女も関係なく、家族全員が協力しあってやる方向になればいいと思います。

Q 家事の中で得意なことは何ですか？

高校生の時に中華料理店の厨房でアルバイトしていたので、チャーハンや中華の炒め物を作るのは得意ですよ。共稼ぎなのでパートナーが仕事で疲れているな…と感じたら、アイコンタクトして冷蔵庫にあるもので夕食を作ります。妊娠中もつらそうな時は荷物を持ったり、家のことをやったり、当たり前のことですよ。故障した家電製品を直すのも得意なんですよ。

いいね!
疲れて帰ってきた妻の顔を見て、冷蔵庫にあるものでパパッと夕食を作るのは、なかなかの家事上級者。仕事と家事のバランスがとれる父親を身近に見ながら、息子さんも育っていくのでしょうか。

Q なかなか家事をやれない男性へアドバイスがあれば…

どんな小さなことでも自らすすんでやると、パートナーのためになります。ちょっとした料理を作るとか、思いやりの言葉をかけるとか、生活の中で小さなサプライズがあれば、人は変わっていくんじゃないでしょうか。



Q どんな家庭を築きたいですか？

会話のある家庭が理想です。家族みんながいつも気軽にしゃべりしていて、一緒に出かけたり、楽しいことをしたり。生活全般に関わっていける家族がいいです。息子には、台所に自然に立てる男性になってほしいです。



家事講座を企画した河合妙子さんからのメッセージ
柴田さんは家を新築する時もお母さんや妹さんに「一緒に住もう」と声をかけられました。損得を考えず、まわりの人々に気遣いができる人です。「家のコトは生きるコト」…これからも家族の皆さんと実践して行ってほしいです。

IKUJII

イクジイ

1歳4カ月のお孫さんのお世話をがんばっている田中章生さん。近所に住んでいる孫の谷口菜菜(かんな)ちゃんを定期的に預かり、なごやかな日々を過ごしています。



東新町・田中章生さん

「ベビーサインで孫と対話」

Q お孫さんとの日常はどんな感じですか？

近くの公園へ連れて行って、ブランコに乗せたりして遊んでいます。最近よちよち歩きをはじめたので、より注意しながら見守っています。しゃべれなくても手でベビーサインをして、いろいろなことを教えてくれるしぐさが何とも可愛いですね。

Q 孫育てで困ることはありませんか？

しょっちゅう行き来があるのでこの家にもなれているし、いろいろな人と会っても人みしりをしません。おとなしく手がかからない子なので、今のところはそんなに困ったことはありません。

孫を預かるというのは、親と違ってやはり気持ちに余裕がありますね。



いいね!
子育てで世代にとって、イクジイの育児のサポートはいつでもウェルカム。若い世代の子育てを応援するとともに、自らの生活にも活力を与えてくれるでしょう。

Q これからお孫さんとどうつきあっていきたいですか？

私はこれまでずっと剣道をやってきて、娘二人も剣道を習っていたので、ぜひ孫にも…。三世代で一緒に剣道をやるのが夢ですね。また、私たち夫婦は旅行に行くのが趣味なので、孫と一緒に旅行に行ってみたいですね。

「男女共同参画に関する絵手紙」入賞
モデルはもちろん、章生さんと菜菜ちゃんです



妻からのコメント
「今日は来ないのか？」といつも孫のことを気にかけている、やさしいおじいちゃんです。「来るとうるさいなあ」と言いながらも、しばらく来ないときさびしいみたいです。

「これからのイクメンが めざすべきこと」

育児に積極的に関わり、時には育児休暇をとる男性を称する『イクメン』。すっかり市民権を得た感があります。一過性のブームではなく、イクメンが当たり前前に生きやすい社会になるために、イクメン自身はどんなふうに進化していくべきなのでしょう。「イクメンで行こう!」の著者であり(株)東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長、渥美由喜氏のお話を紹介します。(内閣府男女共同参画局ホームページより抜粋)



あつみ なおき
渥美 由喜氏

■ ナナメの関係を充実させ、地域でさらなる活躍を

イクメンがただの自己満足に終わらず、地に足のついた活動をしていくために、考えていくべきこと。

ひとつは、『ナナメの関係』作りです。タテの関係(親と子、教師と生徒など)でもヨコの関係(友人など)でもない、子どもたちとガキ大将や近所のおじさんおばさんなど、地域社会の中の関係がナナメの関係。現代はナナメの関係が希薄になっており、こ

れは子どもにとって不幸なことだと思います。

私が考えるイクメン・ムーブメントの帰着点のひとつは、自分の子育てを通じて地域社会とつながっていき、自分の子どもと同じように地域の子も達を愛して育む。そういう男性が増えると、きっと日本の社会は変わっていくはずですよ。



■ これからは『介男子』に備えよ

もうひとつは、介護について。数年前から、私も父を介護する立場になり、日々、格闘しています。育児と介護は似ているようで違う。育児は坂の上の雲を見ながら、坂をふうふう言いながら上っていくイメージ。苦しいこともあるけど、楽しいことも多い。一方、介護は、坂を転がり落ちて、その先は「底なし沼」に足を踏み入れていくイメージ。高齢期とは、尊敬し、愛している親が退行し、衰えていくプロセスですから、がっかりすることだらけ。ただ、私の場合、よかったのは育児を経験していたこと。大変な状況に対するストレス耐性が増しただけでなく、子育てすることで自分の小さい頃を追体験し、親への感謝や尊敬が深まっていた。自分も小さい頃、さぞかし理不尽なことを言ったはず。持ちつ、持たれつ、明日は我が身ですね。よく「育児は育自」と言いますが、私は

「介護は介互」だと思います。生命を愛し慈しむということ、育児→介護のパターン・リレーを経験することで、点ではなく線で捉えることができました。

イクメンは、『介男子(介護する男性)』に備えておくべきだと思います。それはスキルを身につけようというような問題ではなく、心の受け止め方という問題として。これだけ介護の重要性が叫ばれているこの時代、しっかりと向き合っていくべき問題だと思います。

